

医療従事者はそれぞれの専門領域の資格を保持しており、専門的な知識・技術を保持しておりますが、多職種チームとなって方向性を決定していく、心臓リハビリテーションでは、それぞれの専門知識にとどまらない、幅広い知識を高めていく必要があります。

心臓リハビリテーションチームでは、今年度より、心臓リハビリテーションに参加する多職種チーム（医師・理学療法士・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師等）にて、2か月に1回のペースで、テーマを決めて学習会を行うことになりました。

第1回目は2016年5月20日（金）に心臓リハビリテーション担当理学療法士より、「心疾患患者の運動処方について」学習会を行い、多職種から33名の参加がありました。

心臓リハビリテーションの効果や必要性を説明したうえで、各疾患や状態に応じて、最適な運動処方をするうえで、運動の種類・強度・持続時間・頻度を説明しました。

運動は単に行うのではなく、その人にとって、最も効果的な運動（心臓に負担のかからず、かつ最大限運動効果が期待できるポイント）を処方することが、運動処方する担当者の腕の見せ所です。

学習会の様子



【参加者の感想】

理学療法士；心疾患患者へのリスク管理において活かせる点が多く、勉強になった。

作業療法士；レジスタンストレーニングの効果、実際の運動強度について勉強できて良かった。

ボルグスケールで確認しながら、運動回数や負荷量の設定を行っていましたが、たまに疲れてはいないけど血圧・心拍数が著名に上がり、運動処方がわからなくなることがありました。今回の学習会で学んだことを参考にしていきたい。

臨床検査技師；検査科部会では「AT ポイントのことや、骨格筋の増量が血管内皮機能に及ぼす効果」などの学習会を行ったが、更に広い視野に立って心リハの効果とその実際を知れて良かった。

事務；心疾患別の訓練内容の違いがわかり勉強になった。本日の学習会をきっかけに心リハの訓練、検査、指導に関わる職員が興味をもって増えるといいと思った。